

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、良好な河川の保全・再生が創り出す健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現に向け、河川再生について共に考え次の行動へと後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動しています。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	8
➤ 会議・イベント案内.....	10
➤ 会員募集中.....	11

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

JRRN Activity Report

年始のご挨拶

2014年、新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては日頃より JRRN のネットワークの活動にご協力いただきまして大変ありがとうございます。

昨年は JRRN の会員も増加し、アジア地域における各国の活動の情報を共有する ARRN の活動も中国の CRNN に事務局を移し順調に運営されております。

昨年秋には IPCC の第 5 次報告が始まり今年中にはその全貌が明らかになります。

気候システムが温暖化していることは疑いのない事実であり、1950 年以来、気候システム全体で過去数十年から数百年の間に見られていない変化が多く生じるようになってきました。IPCC メンバー国政府が 27 日、スウェーデンのストックホルムで承認した IPCC 第 1 作業部会評価報告書『気候変動 2013：自然科学的根拠』の政策決定者向け要約によると、過去 30 年間で 10 年ごとに区切ってみても、1850 年以來のどの 10 年間よりも地球の平均気温が高い状態が続いています。21 世紀末の地球の平均気温は、1850 年から 1900 年の水準に比し、1.5 度上昇するものと見られており、2 つの最悪のシナリオでは、その差が 2 度を超える可能性が高くなっています。熱波がより頻繁に生じ、より長く続く可能性が非常に高いと見られ、地球温暖化が進むにつれ、一部の例外を除き、現在の湿潤地域では降水量が増大する一方で、乾燥地域の降水量は減少することになりそうです。

このことは河川環境に重大な影響をもたらすと危惧しております。私たちの河川再生という取り組みは、水辺再生を目的に活動していますが、その水辺そのものが失われかねない事態が起ころうとしているのです。現代の地球の海面上昇は、縄文期の海進のように人々が住む場所を変えることで対応できるというものではありません。多くの河川の河口部には産業と人口が集中しており、都市が進展しています。そのための対策として、世界中の各国の対応には大きな違いが見られます。日本の場合はこれまでも地盤沈下に対応する方法として、河川堤防や海岸堤防を嵩上げすることで対応してきました。そのため河川堤防は狭い幅の中で高さを積み増し、人々を水辺から遠ざけることにな

ってしまいました。東京の隅田川では何度も嵩上げされ、カミソリ護岸とまで呼ばれるようになってきました。この対応の最大の問題点は河川堤防で対応するために長大な延長に多大な経費が掛かり、対応工事にも膨大な時間がかかることです。

それに比べ地盤が低く海面上昇への対応を余儀なくされてきたロンドン、オランダ、ベニスなどでは、河口堰や湾口堰を築くことで、長い延長の堤防を築くのではなく、非常に短いポイントで防ぐ方法を選択したのです。オランダでは、ライン川の河口デルタ支流のアイセル川が注ぐグイデル海を 32km の大堤防で閉め切り必要な河川堤防の 20 分の 1 の延長で、今後必要となる維持管理費を大幅に節約し、さらに河川の水辺ラインも数百 km に渡り、人々が使える形で温存することが出来ました。

ベニスでは水没しつつあるラグーン全体をアクアアルタという高波から守るためにモーゼ計画が進行しています。ベニスは海面上昇と地盤沈下のため海岸線の侵食、都市部の高潮、干潟と湿地の喪失という問題を抱えてきました。これらの対策として Consorzio Venezia Nuova という組織をつくり海岸線の保全や 1000ha のラグーン地形を再生してきていますが、モーゼ計画の注目すべきところは、550km² という広大な広さを 400m の湾口堰 4 基で守るということにあります。

河川の再生とはこれをやれば良いというようなマニュアルはありません。その地域の自然、その河川、その地域住民など全ての要素を考慮し、影響し合って最良の方法が導かれなければなりません。破壊と喪失のスピードの方が、保全と再生の取り組みよりも早いのです。我々が持てる知恵と力の総力を挙げ取り組まなければ、子々孫々へ大切な水辺環境を受け渡すことは出来ないのです。

今こそ日本の河川でも、地球温暖化による気候変動を要素に入れた、取り組みを開始しなければなりません。そのためにこのネットワークの活動を、大いに盛んにしていきましょう。今年もよろしく願いいたします。

JRRN 代表理事 土屋信行

『地域で取組む河川環境の評価～河川再生の順応的管理に向けたモニタリング事例集～(仮題)』制作に向けた全国ヒアリング調査報告(2013年12月分)

JRRN が『筑波大学白川(直)研究室「川と人」ゼミ』と連携して取組む『地域で取組む河川環境の評価～河川再生の順応的管理に向けたモニタリング事例集～(仮題)』制作の進捗報告として、昨年12月に実施しました九州ヒアリング調査の概要を簡単にご紹介させていただきます。

なお、モニタリング事例集は2014年2月頃の発行を予定しております。引き続き、皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

本活動は、公益財団法人河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・和田彰)

東彼杵清流会 & 長崎県北振興局 (2013年12月6日)

■ヒアリング先:

1. 東彼杵清流会: 池田代表
2. 長崎県北振興局建設部河川課: 壇課長

■ヒアリング担当者:

JRRN 事務局: 和田
筑波大学白川研究室: 坂本・鴨志田・川畑・中前

■ヒアリング実施日: 2013年12月6日(金)

■ヒアリング担当者よりコメント

東彼杵清流会の池田代表より、彼杵川におけるアユ復活に向けたこれまでの取組み、復活後のモニタリング調査、またアユ復活をきっかけとした国・県・町の行政機関や地元の市民団体・学校との連携、更には本年9月に開催した「そのぎ川まつり」について詳しくお話を伺いました。

また、彼杵川を管理する長崎県北振興局建設部河川課では、壇課長より長崎県内を流れる川の特徴、県内の川をフィールドに活動する市民団体を紹介頂いたのち、魚道設置やそのモニタリング調査について、地元関係者と連携した活動の推進に向けた現状や課題を丁寧にご説明頂きました。

総延長7km弱の小さな彼杵川ですが、熱意あふれる住民力と行政力が融合した地域・学校・行政の協働活動から、河川再生の順応的管理に向けた多くのヒントを学ばせて頂きました。



東彼杵清流会・池田代表とともに



長崎県北振興局にて

直方川づくり交流会 (NPO 法人直方川づくりの会) (2013年12月8日)

■ヒアリング先:

NPO 法人直方川づくりの会:
野見山理事長、湊上様、梶原様、高橋様

■ヒアリング担当者:

JRRN 事務局: 和田・木村
筑波大学白川研究室: 白川准教授・坂本・鴨志田・川畑・中前

■ヒアリング実施日: 2013年12月8日(日)

■ヒアリング担当者よりコメント

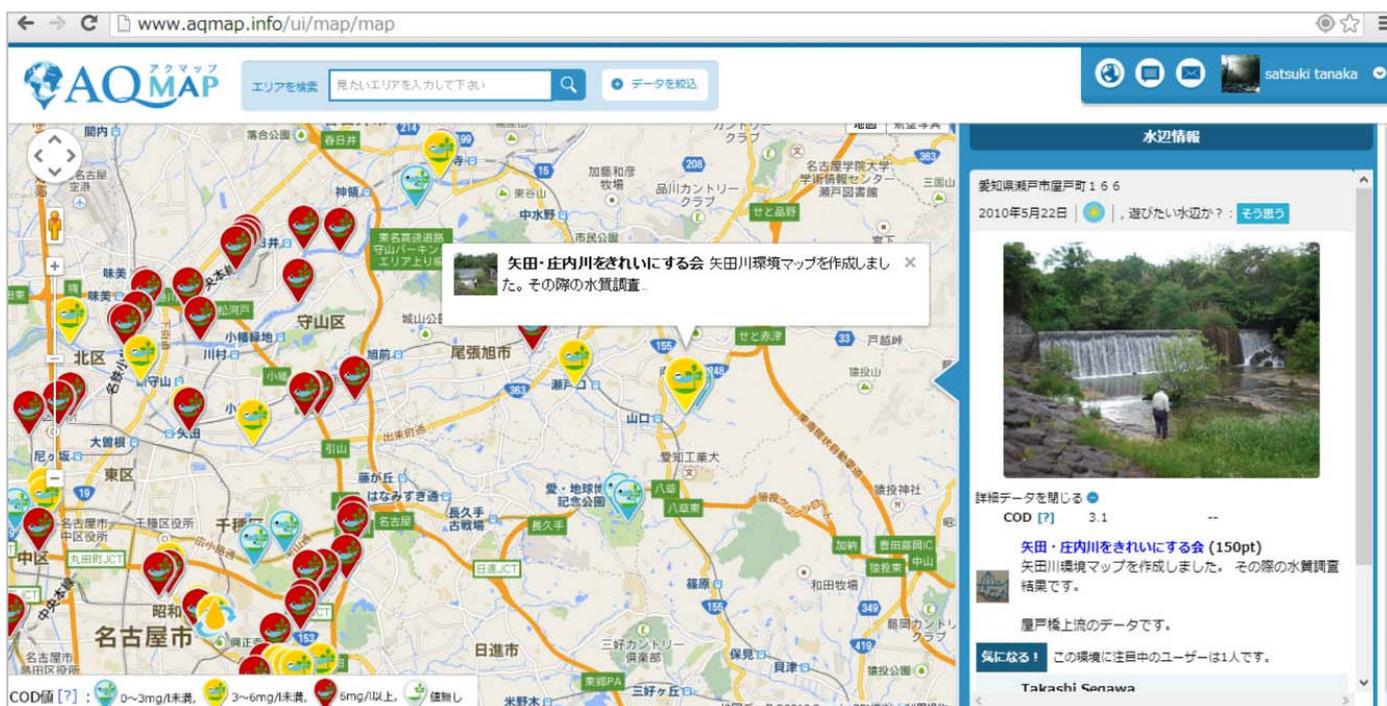
直方川づくりの会の活動拠点となっている遠賀川水辺館にて、野見山代表をはじめ、魚類、鳥類、環境学習、水環境等をご専門とする皆様より遠賀川をフィールドとした様々な活動内容をご紹介頂きました。「50年後の遠賀川夢プラン」の実現に向けて日々奮闘されている方々のお言葉は実に重く、また時空間スケールも大きく感じました。中でも活動を持続発展的に行う中での「際(きわ)」というキーワードが印象に残りました。生物調査についても、必ずしも詳細に記録を残すことはせず、しかし楽しみながらビジュアルに地域に現状を伝える工夫をするなど、地域と共に生き物調査を長く継続していく上での適度なレベルがあるとの助言は、今回の調査の新たな発見となりました。



遠賀川水辺館にて

水辺環境改善をサポートするツール「AQMAP」のご紹介

寄稿者：田中五月（一般社団法人 ClearWaterProject・JRRN 団体会員）



河川の環境改善を実施されている皆様に AQMAP というツールを是非使って頂きたく、ご紹介をさせていただきます。

AQMAP は、有志により結成された ClearWater Project で、「未来の子供達が目を輝かせて飛び込んでいくような川を作ろう」との思いで、無給フルタイムでこの仕組み作りを進めています。

AQMAP[<https://www.aqmap.info/>]は上図のように、地図上に水辺の写真と、COD などの水質情報を持つ「水辺情報」をプロットしていき、水辺の状況を見える化するツールです。

※現状はどなたでも無料でお使い頂けますが、いずれは特定機能のみを 315 円/月程度の有料プランで提供する予定です(特定機能以外の利用は以後も無料)。

1. AQMAP とは

多数の方が参加する川づくりでの情報共有ツール、環境教育、水質調査などでの利用を想定しています。

情報の入力、iphone や android などのスマートフォンを想定しています。

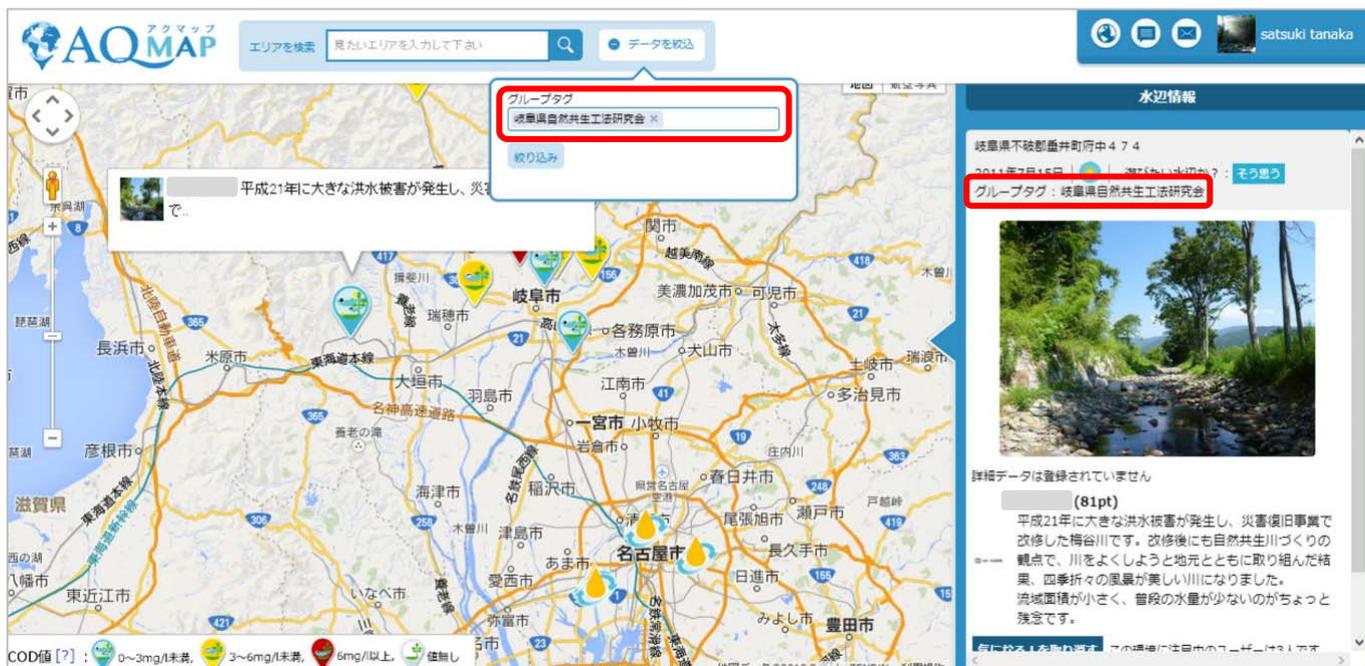
スマートフォンの位置情報を GPS より取得出来るので、川に行っている時に、簡単な操作で情報を投稿することが出来ます。



※地図での場所指定をしさえすれば、パソコンからの情報投稿も可能です。

情報の参照はパソコンで Web から見ることを想定しています。グループタグという機能で、情報にタグ付けすることで、多数のデータの中から、自分の組織に関する情報だけを表示することが出来ます。たくさんのデータが表示された状態で、意図するデータだけを見たい状況を考えます。





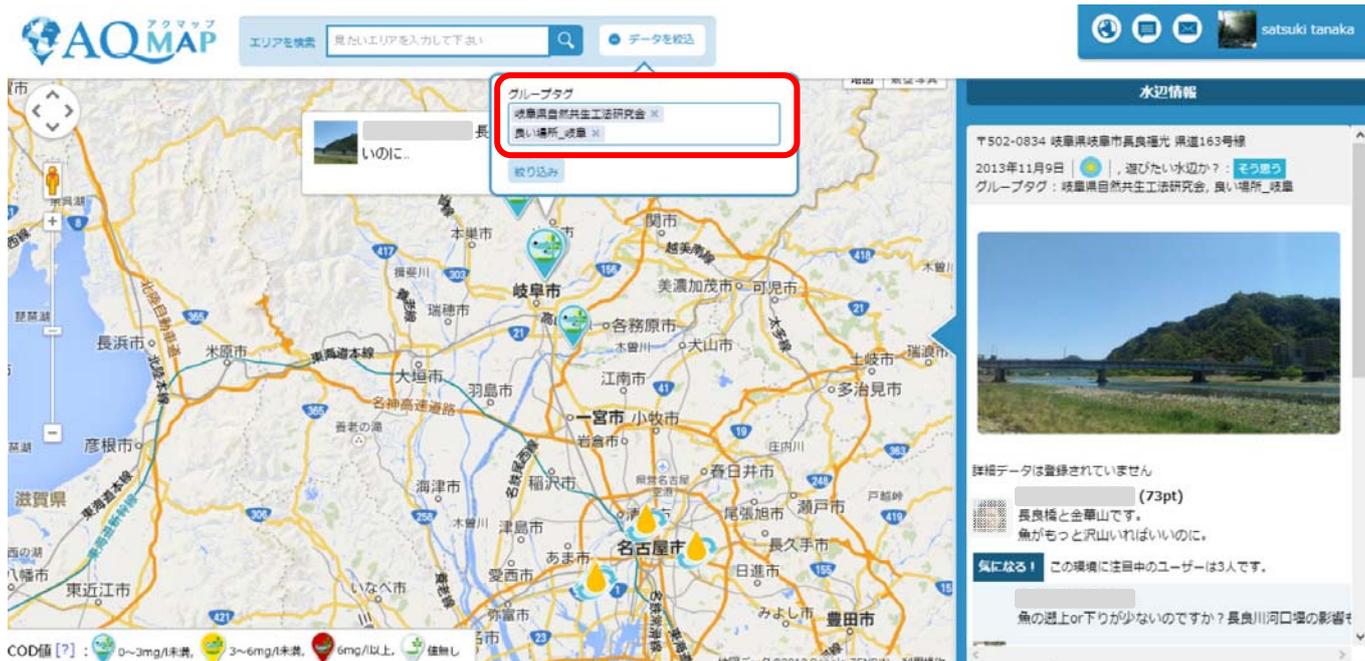
一例として、岐阜県をフィールドに産学民官連携で活動されている「岐阜県自然共生工法研究会」でデータを絞り込んだ場合をご紹介します。

グループタグは入力時に指定しておきます。任意のタグを作成して使用出来ます。

グループタグを複数指定することで、自分の組織に関わるデータをさらに絞り込んでいくことも出来ます。

また、「川づくり」と「水質調査」など複数の活動をされている際に、分けて登録しておくことで、

- ① 自分の組織全体のデータ
 - ② 自分の組織のデータ、かつ、川づくりのデータ
- といった詳細に絞り込んでいく使い方が出来ます。



2. 今後について

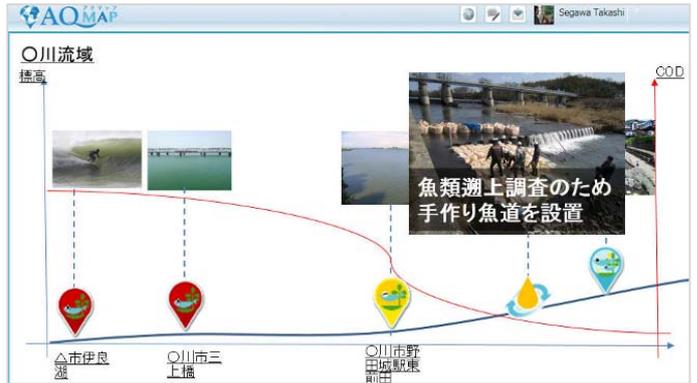
今後はグループタグだけでなく、登録日付やCODなど各項目での絞り込みも可能にしていく予定です。



また、特定の川を選択し、上流から下流の情報を表示させる機能（右上図）や、地図上で、特定の川を選択した時に、該当河川流域の「水辺情報」だけが表示され、河川はフラッシュ表示されるといった機能（右下図）も開発予定です。

下記のようなことを実施したい場合、是非ともAQMAPを使ってみてください。また、ご利用になられた上で、何かフィードバックがあれば、[support.jp@clearwaterproject.info]までいつでもご連絡下さい。

AQMAPはまだ開発途上であり、頂いたフィードバックを元に皆様のお役に立てるシステムへと発展させていきます。



上流で、下流で、海で、どのような状態か理解し、説明出来るでしょうか。
 関係者全員で情報共有出来るでしょうか。
 常に最新の状況を、過去の状況と比較出来るでしょうか。
 簡単な操作で住民の方も参加出来るでしょうか。

➡ 『AQMAP』なら出来ます！

- 上流の状況、下流の状況 見える化** (Visualization of upstream and downstream status)
- NPOや住民、全員での情報共有** (Information sharing for all NPOs and residents)
- 情報を陳腐化させず、過去とも比較** (Preventing information from becoming obsolete and allowing comparison with the past)
- 簡単な操作方法での参加** (Participation through simple operation methods)

水辺からのメッセージ No.56

岡村幸二 (JRRN 会員)

水辺に映る生物多様性： 人工の治水施設が三十数年たち自然の湖沼のような風景に



撮影：2013年11月（埼玉県・さいたま市見沼区春野）

◆治水の調節池が自然とふれあいの場に

深作川遊水地は1980年代まで常時水面はなく、タイヤ・自転車などが不法投棄されていました。その後、環境共生をテーマに“アーバンみらい東大宮”の開発とともに常時水面を創出し、野鳥や水生生物の棲む“多自然遊水地”が生まれました。

郊外団地開発と寄り添うように環境共生型の調節池を整備することから、良好な環境創出による高い付加価値が生まれました。今では野鳥観察の見学会や遠くから魚釣りに訪れる人も多く見られます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

川系男子の『川と人』めぐり ～ 新年ご挨拶 ～

坂本貴啓 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きではない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介します。



謹賀新年

初春のお慶び申し上げます。

昨年中は全国の川をまわり、素晴らしい『川と人』に出会いました。今年も川系男子の『川と人』めぐりを続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

川系男子(筑波大学大学院博士後期課程)
坂本貴啓

写真:筑後川の昇開橋を望む

<現在の進捗状況>

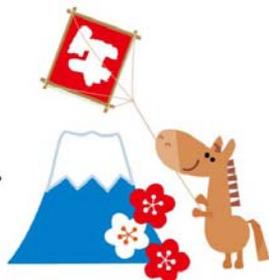
- 九州地方16水系 (2012年10月19日～29日)
- 中国地方13水系 (2012年11月24日～30日)
- 九州西部 4水系 (2013年2月11日～13日)
- 四国地方 8水系 (2013年7月3日～10日)
- 東北地方12水系 (2013年8月4日～16日)
- 北陸地方12水系 (2013年9月1日～7日)
- 北海道地方13水系 (2013年10月20日～26日)
- (2013年11月17日～23日)
- 近畿地方10水系 (2013年12月10日～22日)
- 109水系中88水系を訪問

<今後の訪問予定> あと21水系!

- 中部地方13水系 (1月)
- 関東地方8水系 (2月)

<今年の抱負>

たくさんのお話を聞き、
新しい発見をすること。



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「いい川」づくり研修会【愛知 1/22・首都圏西部 1/29・首都圏東部 2/7】案内

NPO 法人全国水環境交流会より御提供頂いたイベント情報です。

(1) 愛知 “いい川” づくり研修会 (1月22日(水) / 愛知県自治センター12階 E 会議室)

- 【テーマ】 多自然川づくりの技術と推進の仕組み
- 【主催】 NPO 法人全国水環境交流会、愛知県河川海岸協会、愛知・川の会
- 【日時】 2014年1月22日(水) 10:00~17:00
- 【会場】 愛知県自治センター 12階 E 会議室 (愛知県名古屋市中区)
- 【定員】 100名 (先着順)
- 【対象】 行政・設計・施工事業者の川づくり担当者, 研究者, 市民・住民, 学生など
- 【参加費】 無料



矢作川、古巣地区の水制工

◆詳細は右参照: <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1452.html>

(2) 首都圏西部 “いい川” づくり研修会 (1月29日(水) / 国立オリンピック記念青少年総合センター)

- 【テーマ】 都市の洪水対策と多自然川づくり
- 【主催】 NPO 法人全国水環境交流会
- 【日時】 2014年1月29日(水) 10:00~17:00
- 【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 4階 402室
- 【定員】 100名 (先着順)
- 【対象】 行政・設計・施工事業者の川づくり担当者, 研究者, 市民・住民, 学生など
- 【参加費】 無料



都立野川公園を流れる野川

◆詳細は右参照: <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1457.html>

(3) 首都圏東部 “いい川” づくり研修会 (2月7日(金) / 国土交通省関東地方整備局 会議室)

- 【テーマ】 都市河川の多自然川づくり
- 【主催】 NPO 法人全国水環境交流会
- 【日時】 2014年2月7日(金) 10:00~17:00
- 【会場】 国土交通省関東地方整備局 会議室 (埼玉県さいたま市中央区)
- 【定員】 140名 (先着順)
- 【対象】 行政・設計・施工事業者の川づくり担当者, 研究者, 市民・住民, 学生など
- 【参加費】 無料



黒目川/埼玉県朝霞市

◆詳細は右参照: <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1461.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「ゲリラ豪雨展」(12/3-1/19@荒川知水資料館)、「雨といきもの展」(11/27-1/20@はちけんや)

「水の巡回展ネットワーク (jawanet)」より、12月に開催される二つの企画展示のご案内を頂きました。

「ゲリラ豪雨展」

- 【開催場所】 荒川知水資料館 amoa (東京)
- 【期間】 2013年12月3日(火)~2014年1月19日(日)
- 【休館日】 月曜日 及び 年末年始
- 【開館時間】 9:30~16:30
- 【主催】 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所



「雨といきもの展」

- 【開催場所】 はちけんや (大阪)
- 【期間】 2013年11月27日(水)~2014年1月20日(月)
- 【休館日】 なし
- 【開館時間】 10:00~17:00
- 【主催】 国土交通省近畿地方整備局、大阪府



◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/jawanet/01/top.html>

【企画制作】 水の巡回展ネットワーク



【海外からの提供情報】

■「TRRN (台中河川・流域再生ネットワーク) 制作の河川再生啓発動画・後龍溪四重奏」ご紹介

TRRN (台中河川・流域再生ネットワーク) 事務局より、昨年引き続き、河川再生の社会啓発を目的としたムービーの第二弾「Houlong River Quartet (後龍溪四重奏)」(約10分)のご案内を頂きました。(youtube)

今回制作の動画は、昨年制作の「Erren River Concerto」の好評を受け、Houlong 川流域に暮らす多民族の紹介から始まり、川に生息する多様な生物の保全を目的に制作されたものです。

台湾語(英語字幕あり)ではありますが、台湾における川と人の関わり、また生物調査や川の情報発信事情等がよく分かる素晴らしい内容となっております。



- 動画「Houlong River Quartet」(約10分)視聴はこちら
<http://www.youtube.com/watch?v=IS-QsxJfk9U>

また、本動画の公開と合わせて、河川に関わる情報ポータルサイトのスマートフォンアプリケーションも公開されています。

- 台湾河川情報ポータルサイトのスマホアプリはこちら
<https://itunes.apple.com/tw/app/he-chuan-fu-yu-yi-qigo/id719858878?l=zh>

【海外からの提供情報】

■英国における堰の撤去、低減、改築に関わる手引き「Weir removal, lowering and modification: A review of best practice」(2013.11 発行)ご案内

2012年12月にJRRNが招聘した英国河川再生センター(RRC)のジェニー・マントさんらが中心となり制作された「堰撤去に関わる手引き」が英国環境庁より発行されました。

2014年4月頃には、歴史的建造物(土木遺産)として価値のある堰の改築に際しての留意事項も加わり、本手引きの更新版が発行される予定です。

- 名称: Weir removal, lowering and modification: A review of best practice
- 発行: 英国環境庁 (Environment Agency)
- 発行年月: 2013年11月
- 言語: 英語
- ページ数: 約76ページ

- ◆手引きダウンロード先等、詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1468.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報(Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報(2013年12月号)をRRC事務局より送付頂きました。

本号では、堰の撤去や低減、改築に関わる手引きの発行案内、来年5月のRRC年次講演会の案内、また欧州 RESTORE project の総括報告書「River restoration in Europe: the art of the possible」などが登場しています。

- ◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1471.html>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■水の巡回展「雨といきもの展」 ※P7 参照

○日時：2013年11月27日～2014年1月20日
 ○主催：国土交通省近畿地方整備局、大阪府
 ○場所：川の駅 はちけんや (大阪)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1825.html>

■水の巡回展「ゲリラ豪雨展」 ※P7 参照

○日時：2013年12月3日～2014年1月19日
 ○主催：国土交通省荒川下流河川事務所
 ○場所：荒川知水資料館 amoa (東京)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1827.html>

■平成25年度 川に学ぶ全国事例発表会

○日時：2014年1月17日(金) 13:00～18:00
 ○主催：(公財)河川財団子どもの水辺サポートC
 ○場所：エッサム神田ホール (東京)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1805.html>

■愛知“いい川”づくり研修会 多自然川づくりの技術と推進の仕組み ※P7 参照

○日時：2014年1月22日(水) 10:00～17:00
 ○主催：NPO法人全国水環境交流会、愛知県河川海岸協会、愛知・川の会
 ○場所：愛知県自治センター 12階E 会議室(名古屋)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1836.html>

■首都圏西部“いい川”づくり研修会 都市の洪水対策と多自然川づくり ※P7 参照

○日時：2014年1月29日(水) 10:00～17:00
 ○主催：NPO法人全国水環境交流会
 ○場所：国立初音ビック記念青少年総合センター (東京)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1838.html>

■第九回「外来魚情報交換会」

○日時：2014年2月1日(土)～2日(日)
 ○主催：琵琶湖を戻す会
 ○場所：滋賀県草津市立まちづくりセンター (滋賀)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1815.html>

■首都圏東部“いい川”づくり研修会 都市河川の多自然川づくり ※P7 参照

○日時：2014年2月7日(金) 10:00～17:00
 ○主催：NPO法人全国水環境交流会
 ○場所：国土交通省関東地方整備局 会議室 (埼玉)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1840.html>

■2014年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2014年6月5日(木)～6日(金)
 ○主催：土木学会水工学委員会河川部会
 ○場所：東京大学農学部 弥生講堂 (東京)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1831.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています!

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。(JRRN事務局)

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2014.1.7-9(シンガポール) 7th Int. Symposium on Environmental Hydraulics ISEH
- 2014.2.24-27(パース/豪州) 35th Hydrology and Water Resources Symposium
- 2014.5.7-8(ロンドン/英国) 15th RRC Annual Network Conferences
- 2014.6.23-27(トロンハイム/ノルウェー) EcoHydraulics 2014
- 2014.6.25-27(ブリスベン/豪州) 5th Int. Symposium on Hydraulic Structures
- 2014.7.21-25(マナウス/ブラジル) 2nd Int. Conference on the Status and Future of the World's Large Rivers
- 2014.9.2-5(カタローニャ/スペイン) Cong. on Industrial and Agricultural Canals
- 2014.9.15-19(キャンベラ/豪州) 17th International Riversymposium
- 2014.9.21-26(リスボン/ポルトガル) IWA World Water Congress & Exhibition
- 2014.9.28-10.2 (ハンブルク/ドイツ) 11th International Conference on Hydrosience & Engineering
- 2015.4.12-17(Daegu/韓国) 7th World Water Forum

※詳しくはARRNウェブサイト内の国際会議ページをご参照下さい。→<http://www.a-rr.net/news/conference/>

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご
参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

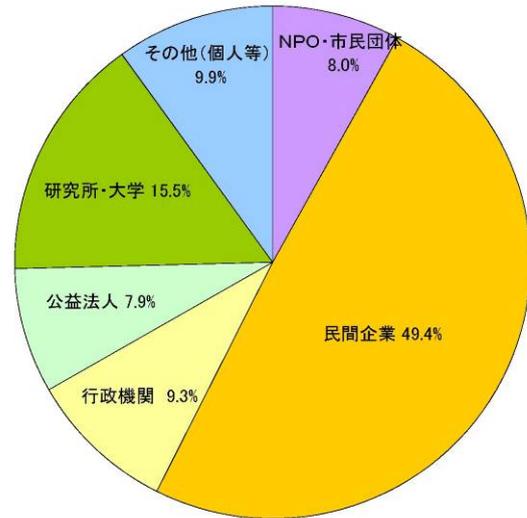
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信され
ます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2013年12月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：640名、団体会員数：52団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
公益財団法人リバーフロント研究所 内
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

